

安全報告書 2012



秩父鉄道株式会社

1. 経営責任者からのメッセージ
2. 輸送の安全に対する基本方針と安全目標
3. 安全管理体制と方法
4. 輸送の安全への取組み
5. 安全確保のための教育・訓練
6. 鉄道事故等に関するご報告
7. ご利用のお客様、地域の皆様とともに

1. 経営責任者からのメッセージ

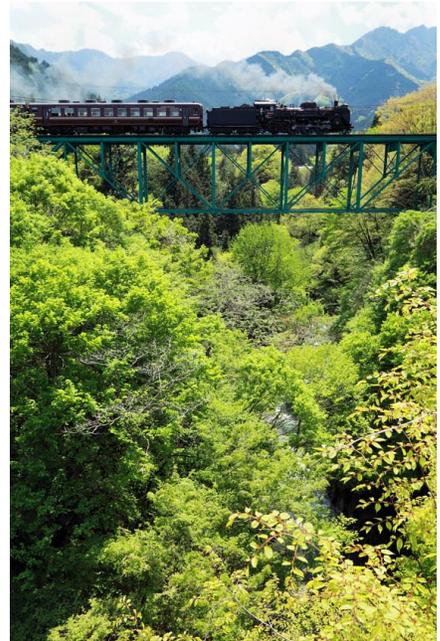
「安全報告書2012」の公表にあたって

秩父鉄道株式会社
代表取締役社長 大谷 隆 男

日頃より、秩父鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。秩父鉄道では、「安全・安定した輸送の確保」を経営方針の第一に掲げ、基本となる規則やルールを順守する社内体制を強化し、電車の更新など安全に対する積極的な投資を行っております。今後も沿線自治体と協調して、お客様に安心してご利用いただける鉄道を目指し、全社員が一丸となって積極的な取り組みを進めてまいります。

また、先の震災を鑑みまして、引き続き防災体制の強化にも全力を傾注し、利便性への影響極小化を踏まえた節電対策を実施してまいります。

本報告書は鉄道事業法に基づき、2011年度における弊社の安全輸送のための取り組みや、輸送の実態をご紹介するために発行いたしました。皆様方の声を、今後のより一層の安全輸送に役立てるため、率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。



2. 輸送の安全に対する基本方針と安全目標

(1) 基本方針

『輸送の安全確保、無事故・無災害の達成』を最優先として、社員一人ひとりが行動するための基本方針を、「安全行動規範」として掲げて、全社員に周知しています。

「安全行動規範」

- ① 一致協力して輸送の安全確保に努めます。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正忠実に職務を遂行します。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- ④ 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いをします。
- ⑤ 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

(2) 安全目標

年間ゼロ災害の達成

“スローガン”

安全対策を100%履行して、ゼロ災害を達成しよう

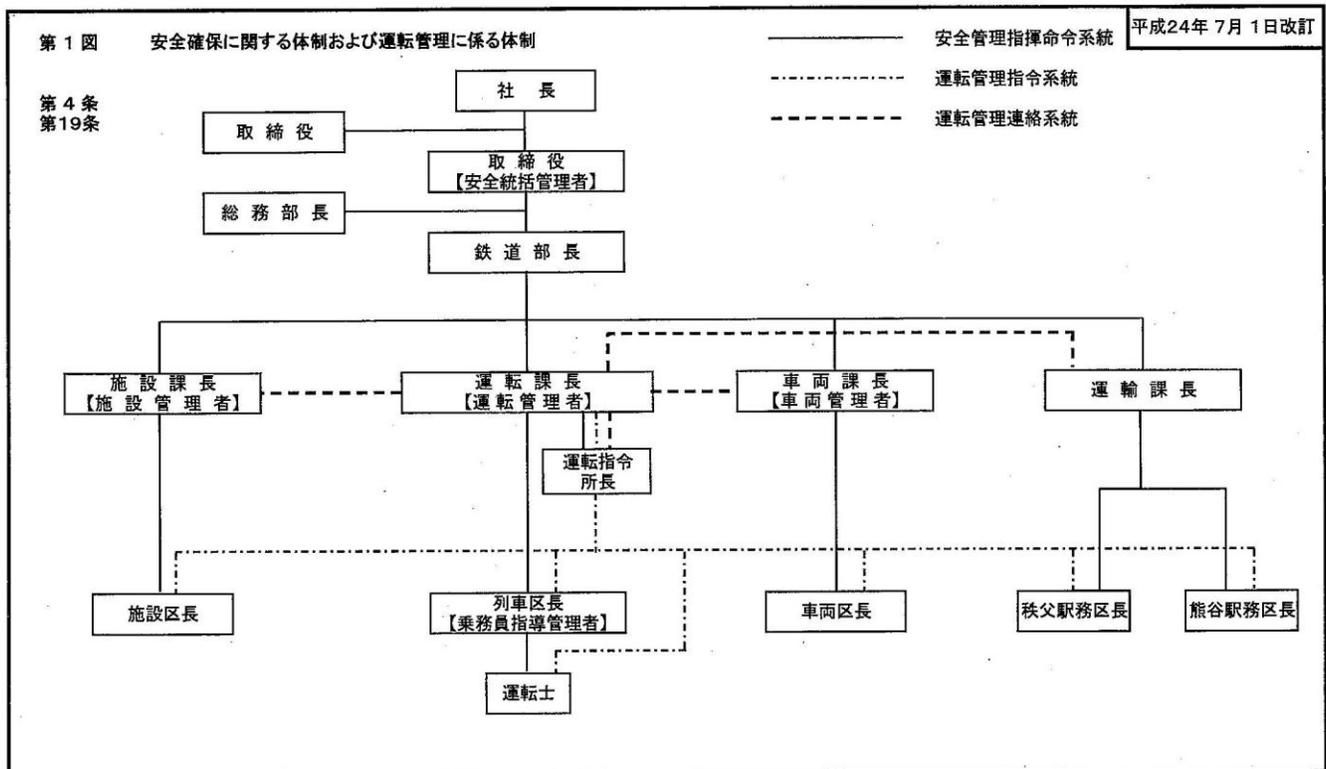
3. 安全管理体制と方法

(1) 安全管理体制

平成18年10月1日に制定された「秩父鉄道 安全管理規程」では、社長を最高責任者とし、社長が選任した安全統括管理者のもと、安全推進の管理体制を確立し、各管理者の役割と権限を明確に定めています。

| 役 職 | 役 割 |
|----------|--|
| 社 長 | 安全第一の意識をもって事業活動を行える体制の整備に努めるとともに、輸送の安全を確保するための最終的な責任を負う。 |
| 安全統括管理者 | 輸送の安全の確保に関する業務を統括する。 |
| 総務部長 | 輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。 |
| 鉄道部長 | 安全統括管理者の指揮の下、運転、施設、車両に関する業務を統括する。 |
| 運転管理者 | 安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。 |
| 乗務員指導管理者 | 運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。 |
| 施設管理者 | 安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を管理する。 |
| 車両管理者 | 安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を管理する。 |

(組 織 図)



(2)安全管理の方法

①運転事故防止対策委員会

輸送の安全確保を目的に、安全統括管理者を委員長とする「運転事故防止対策委員会」を毎月1回開催し、事故、災害等が発生した場合の多面的分析、再発防止施策の立案、審議、ヒヤリハット報告事項等の対策を検討し、その処置の確認等を行っています。また、年2回同委員会で現業職場において適正に業務が行われているか点検するための「安全指導」を実施し、現業職場の実態の把握に努めています。

本年度の安全指導は、第1回目は、2011年4月に列車の運転室に添乗し、乗務員の適切な運転操作及び貨物駅における適切な入換作業の点検を実施しました。第2回目は10月に駅係員の信号制御盤の取扱いを中心とした、運転取扱業務の点検を実施しました。

②職場巡視

夏季運転無事故運動、年末年始輸送安全総点検の運動期間中、会長、社長、役員、各部課長が現業職場を巡回訪問し、各職場から提出された各運動実施計画書に基づき、作業の視察や係員との意見交換を行い、双方向のコミュニケーションを図りました。

③内部監査

2008年度より、安全マネジメント態勢の有効性と安全管理体制の適合性を確認するため、運輸安全マネジメント内部監査員研修を受講した内部監査員により構成された監査チームが、“鉄道部内部監査”を実施しております。社長(経営トップ)をはじめとする経営管理部門へのインタビューの他、現業職場長に対して、安全管理規程他の関係規程に適合した業務を遂行しているかを確認し、是正・改善するなど、PDCAサイクルが適切に機能しているかの社内診断を行っています。



(マネジメントプレビュー会議)



(鉄道部内部監査)

④マネジメントプレビュー会議

安全管理体制の継続的な改善のため、内部監査結果の報告等を受け、安全管理体制を評価し、必要に応じて見直し・改善を行う会議で、毎年1回、運転事故防止対策委員会をマネジメントプレビュー会議と位置付けて、社長出席のもと定期に開催することとしています。

2011年度は、2012年5月に開催し、安全管理体制に必要な業務の持続的な改善、安全に対する投資の必要性、安全方針、安全重点施策等について審議しました。

4. 輸送の安全への取組み

2011年度も列車運行の安全性の確保・維持と改善、旅客サービスの向上のため、安全対策、修繕工事を実施しました。これらのうち主な安全への取組みについてご紹介いたします。

安全重点施策



(導入中の 7500 系電車)

(1) 2011 年度の安全対策工事と主な修繕費

| | |
|----------|-----------|
| 安全対策更新工事 | 394,390千円 |
| 主な線路修繕工事 | 83,478千円 |
| 主な電気修繕工事 | 49,481千円 |
| 主な車両修繕工事 | 182,928千円 |
| 計 | 710,277千円 |

(2) 2011年度の安全対策工事

①車両の更新

現在、秩父鉄道の主力として走っている1000系電車は各種リバイバルカラー等でご好評をいただいておりますが、新造後の経年を考慮して代替を進めております。2011年度は3編成9両を東急電鉄から購入した8090系電車に秩父鉄道仕様の運転保安装置等を搭載し、車内旅客案内表示器、自動放送装置、車椅子スペース設置等のバリアフリー化のうえ、7500系電車として運用を開始しました。2012年度も1000系電車1編成の代替を予定しており、今後も計画的に電車の代替を進めてまいります。

②コンクリート枕木化

列車が高速で走る区間や貨物列車を運転している区間から順次、木枕木をレールの締結力が強いコンクリート枕木に更换し、レールの劣化を防ぐとともに乗り心地の向上を図っています。2010年度の2,820丁に続いて2011年度は皆野-和銅黒谷駅-大野原駅間の1,026丁をコンクリート枕木に更换しました。2012年度は新郷-武州荒木駅間 2,500 丁のコンクリート枕木化を予定しております。

③分岐・橋・継目枕木更换

経年劣化した分岐枕木、橋枕木、継目枕木等1,304丁の枕木を更换いたしました。

④軌道整備

線路の道床交換を162m実施し、道床碎石を1,380トン補充のうえ、マルチプルタイタンパーによる軌道整備を60.7km実施いたしました。

⑤踏切道の安全性向上

2011年度は第4種の秩父本線武州荒木No.4踏切道に警報機と遮断機を設置しました。2012年度は第4種の黒谷No.7 踏切道に警報機と遮断機を設置し、踏切道の安全対策を推進します。

⑥踏切保安設備の主要部品の更新

秩父本線と三ヶ尻線の第1種踏切道の既設踏切保安設備について、経年した踏切遮断機28台と列車検知装置 57式を更新いたしました。

⑦駅の信号装置の更新

秩父本線の各駅に設置されている信号保安装置(継電連動装置)の更新を進め、列車運行の安全性確保に努めています。2011年度は永田駅の継電連動装置を更新し、引続き2012年度は小前田駅と寄居駅の継電連動装置の更新を予定しております。

⑧架線の張替

摩耗や経年劣化が進んだ電車線1,330mと吊架線1,061m、高圧配電線800mの張替えを行いました。

⑨電気機関車の主回路更新

経年劣化が進んだ電気機関車1両の高圧主回路、補助回路を引替え、回転機類の絶縁更新を行いました。

⑩蒸気機関車の全般検査

蒸気機関車C58363号機の全般検査を施工し、経年劣化したボイラーの修繕、摩耗した車輪更新、ピストンの部品更新を行いました。



(全検を施工した SL)

5. 安全確保のための教育・訓練

(1) 現業職場における各種訓練

各現業職場において、春の全国交通安全運動など年4回実施される交通安全運動の期間中に、車両応急処置訓練、高所作業訓練等を実施し、係員の知識技能の維持と向上を目的とし取り組んでおります。

(2) 異常時総合訓練

この訓練は、踏切事故等重大事故が発生した場合を想定して、弊社の本社がある熊谷市の消防本部と合同で、お客様の避難誘導、関係各所への連絡速報体制、負傷者の救出と復旧作業等、異常時における知識・スキルの向上を目的として、毎年取り組んでおります。

本年度は、2012年3月に広瀬川原駅構内で、踏切道を支障した自動車に列車が衝突し、列車が脱線して乗客が負傷した想定により、救助と復旧の訓練を実施しました。



(異常時総合訓練)



(車両応急処置訓練)

(3) 防災訓練(減速運転・異常時出動訓練)

毎年、9月1日の防災の日または防災週間に大きな地震が発生したことを想定して、列車の減速運転、関係各所への情報伝達訓練を行い、現地に出動して橋梁等の確実な安全確認が行えるよう、技術係員の出動訓練も実施しています。



(訓練での社長による訓示)

6. 鉄道事故等に関するご報告

2011年度に発生した「鉄道運転事故」「輸送障害」「インシデント」の発生件数は以下のとおりです。

| | |
|-----------|---------------|
| 鉄道運転事故 | 6件 |
| ・列車脱線事故 | 1件（踏切障害事故による） |
| ・踏切障害事故 | 4件 |
| ・鉄道人身障害事故 | 1件 |

※鉄道運転事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身傷害事故をいいます。

| | |
|-------------|-----|
| 輸送障害 | 10件 |
| ・自然災害等によるもの | 5件 |
| ・設備の故障によるもの | 4件 |
| ・自殺等によるもの | 1件 |

※輸送障害とは、列車の運転を休止したもの、または、30分以上の遅延を生じたものをいいます。

| | |
|--------|----|
| インシデント | 0件 |
|--------|----|

※インシデントとは、運転事故が発生するおそれがあると認められた事態をいいます。



7. ご利用のお客様、地域の皆様とともに

(1) サービス介助士資格の取得

高齢化社会を迎えるとともに、多くのお客様に安心して鉄道をご利用いただけるよう、職員のサービス介助士資格の取得を推進しております。2011年度までに駅係員19名、列車乗務員5名が資格を取得いたしました。

(2) AED の設置

秩父鉄道では、お客様の急病等万一の事態に備え羽生、熊谷、寄居、長瀨、秩父、御花畑駅に AED（自動体外式除細動器）設置しております。

(3) こども110番の駅

通学や学習塾などに通うため鉄道を利用するお子さまが、より一層安心して駅を利用することができる環境づくりを目指し「こども110番の駅」の取組に参加しています。子どもを危険から守り、安全な地域づくりに貢献することを目的に積極的に推進して参ります。

この安全報告書に関するご意見、お問い合わせ等は
秩父鉄道株式会社 鉄道部 運転課
TEL 048-523-3871
まで、お願いいたします。